

3

爬 虫 類

アカウミガメ

Caretta caretta

カメ目ウミガメ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I 類

環境カテゴリ

絶滅危

II 類

選 定 理 由

県内での記録そのものが非常に少なく、特殊な生息環境に依存している。環境庁版レッドデータブック絶滅危惧 II 類。

形 態

直甲長は 690-1030mm 程度で、成体の背面は赤褐色、腹面は黄白色。幼体は黒褐色。肋甲板は 5 対。頭部が大きく、下顎が発達している。前肢は発達した鱗状。卵は直径約 40mm の球形。

近似種との区別

アオウミガメとは、肋甲板が 5 対であるのに対して、アオウミガメの肋甲板が 4 対であることなどで区別される。

分布の概要

太平洋、大西洋、インド洋に広く分布し、温帯、亜熱帯域に産卵場をもつ。日本での産卵場は日本海側では石川県以南、太平洋側では福島県以南の本州から四国・九州の太平洋岸と、南西諸島にある。

県内の生息状況

蒲生田海岸（阿南市）、坂の浜、木岐白浜（由岐町）、大浜海岸（日和佐町）、亀の子海岸、砂美の浜、小島の浜（牟岐町）、大里海岸（海南町）で産卵する。蒲生田海岸や大浜海岸では、1960 年代にはそれぞれ 600 回、300 回以上の上陸が記録されているが、近年では両方の砂浜を合わせても、数十回の上陸しかなく、減少傾向は著しい。

生態的特性

雌は 5 月から 7 月の主に夜間に、外洋に面した砂浜に上陸し、深さ数十 cm の穴を掘って産卵する。一度の産卵数は 100-120 卵で、産卵は数回行われる。卵は産卵後約 2 箇月で孵化し、幼体は海に戻って、海流に流されて漂流生活をおくる。幼体時には流れ藻に潜んで様々な生物を摂食しているが、成長するにつれて動物食の傾向が強くなり、主に底生の無脊椎動物を捕食する。

生存に対する 脅威・保護対策

産卵場である砂浜の護岸、観光地化などによる減少や消失が最大の脅威で、卵の盗掘、定置網や底引網などによる混獲、海洋投棄物の誤食などが個体数の減少に拍車をかけている。また、周辺河川のダム等による土砂の流下量の減少が、浜の砂の堆積量を減少させている。産卵場となる砂浜の保全と漁業の混獲の防止対策が最も重要である。砂浜付近の集落の照明を暗くしたり、ウミガメに影響を与えない波長の光に代えることや、護岸工事によって変化した砂浜を復元するためには護岸等の改良も必要であろう。また、砂浜への車両の進入やキャンプ・花火等の禁止も考えられる。

参 考 文 献

亀崎直樹．1996．ウミガメ．千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏（編）日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、pp. 56 - 58,62. 平凡社．
亀崎直樹・松井正文．1997．日本におけるウミガメ類の生物学的研究（総説）．沖縄生物学会誌 35: 1-18．
松井正文．2000．アカウミガメ．環境庁（編）改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - （爬虫類・両生類）．pp. 38-39. 自然環境研究センター．
曾川和郎．1979．徳島県の両生・は虫類の概要．第 2 回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）徳島県．pp. 2-4. 環境庁．

イシガメ

Mauremys japonica

カメ目イシガメ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が狭い範囲に限られ、生息環境が急激に悪化しているため、個体数が著しく減少している。また、他のカメ類による遺伝汚染、生態的地位の喪失の恐れもある。

形 態

背甲長は 140-210mm、平均は雄で 104mm、雌で 173mm 程度で、雌の方が大きくなる。成体の背甲は楕円形で中央に隆起があり、後縁は鋸歯状になっている。背甲は黄褐色から赤褐色で、腹甲は黒色。頭部は黄褐色。雄の腹甲は後部でへこみ、雌に較べると尾は長くて付け根が太い。卵は長径 36mm、短径 22mm 程度の長楕円形で、卵殻は柔らかい。

近似種との区別

同所的に生息するクサガメとは、頭部に斑紋がなく、甲羅の後縁が鋸歯状であること、背に 3 本の隆起がないことで区別される。

分布の概要

本州、四国、九州に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では、生息地点数、個体数共に少なく、東部の山麓部にのみ生息する。分布記録のある市町村は、徳島市、小松島市、名西郡神山町、名東郡佐那河内村であるが、この中には人為分布の可能性が高い公園などの記録が含まれている。

生態的特性

低地から山地の河川、池沼、湿地、水田などに生息し、日光浴のためによく上陸する。3-5℃ の低い水温でも活動でき、かなりの距離を移動する。厳寒期を除く秋から春にかけて交尾し、5 月下旬から 8 月上旬の早朝に、畑、荒れ地、川や池の土手などの比較的乾燥した土中に産卵する。産卵回数は年 1-2 回で、1 回の産卵数は 1-12 個。孵化個体は産卵された年の秋ないし、翌年の春に地上に現れる。雑食性で、水草・藻類・魚類・両生類・ミミズ・甲殻類などを摂食する。卵はシマヘビに、成体は哺乳類に捕食される。河川上流の淀みや池などの水中で越冬する。雄は 2 歳、雌は 10 歳ほどで性成熟するらしい。

生存に対する 脅威・保護対策

生息地破壊が最大の脅威で、護岸工事や河川敷の公園化などに伴う産卵に適した陸環境の改変、水質汚濁、水田の乾田化などが甚大な影響を及ぼしている。また、商業目的による採集や、クサガメとの雑交による遺伝汚染、侵入したアカミミガメとの競合、カニ罠による混獲死も懸念される。河川や池沼の改修の際には、護岸の傾斜をなるべく緩やかにして、コンクリートだけで固めず、産卵場所となる土手や畦では、砂地や草地を確保するなどの対策が考えられる。

参 考 文 献

千石正一．1979. イシガメ．千石正一（編）．原色／両生爬虫類、p.5. 家の光協会．
矢部隆．1995. イシガメ．日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（Ⅱ）．pp. 455-462. 日本水産資源保護協会．
安川雄一郎．1996. ニホンイシガメ．千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏（編）日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、pp. 59,63. 平凡社．

スッポン

Pelodiscus sinensis

カメ目スッポン科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

報不足

選 定 理 由

県内での分布が非常に狭い範囲に限られ、生息環境も悪化しているため、個体数は減少していると考えられる。

形 態

背甲長は 200-350mm 程度。甲には鱗板がなく、柔らかい皮膚で被われている。水かき、爪がよく発達している。鼻孔は吻端まで伸び、口先がとがっている。背面は緑味を帯びた灰褐色で、暗色の斑紋が点在する。腹面は白色からピンク色。雄の尾は雌に較べると長い。孵化直後の幼体は背甲長 25mm 程度で、腹面は赤味を帯びている。卵は直径 15-20mm の球形。

近似種との区別

他のカメとは、甲羅が柔らかいこと、吻端が突出していることなどで区別される。

分布の概要

本州、四国、九州、南西諸島および中国大陆東部、台湾に分布する。しかし、日本本土産とそれ以外は遺伝的に大きく異なり、分類の再検討がなされている。

県内の生息状況

県内では吉野川流域をはじめとする低地に広く生息していると考えられているが、分布記録のある市町村は、海部郡海南町、名西郡石井町、名東郡佐那河内村に過ぎない。

生態的特性

流れの緩やかな河川中・下流域の泥底や池沼に生息する。水中で生活していることが多いが、しばしば日光浴のために上陸する。4 月から 6 月に交尾し、雌は翌年まで精子を蓄えることができる。5 月から 8 月の早朝に、きめの細かい砂地に直径 5-7cm、深さ 10-20cm の穴を掘り、一度に 10 - 40 個の卵を産んで穴を埋める。産卵は年に 3-5 回繰り返される。卵は 2 - 3 箇月で孵化し、1 週間ほどして地上に出て水に入る。肉食性で魚類、甲殻類、貝類、昆虫類などを食べる。幼体はアリ、鳥類、ネズミ類などに捕食される。

生存に対する 脅威・保護対策

生息地破壊が最大の脅威で、護岸工事や河川敷の公園化などに伴う産卵に適した陸環境の改変、水質汚濁などが影響を及ぼしている。また、養殖用に導入された国外産の個体との交雑によって、遺伝的な純粋性が失われつつある可能性が高い。河川や池沼の改修の際には、コンクリートによる三面張りを避ける、護岸の傾斜をなるべく緩やかにする、産卵場所となる土手では、砂地や草地を確保する、などの対策が考えられる。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.
太田英利・佐藤寛之 . 1997. スッポン (おもに琉球列島個体群について) . 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (IV) . pp. 322-330. 日本水産資源保護協会 .
千石正一 . 1979. スッポン . 千石正一 (編) . 原色/両生爬虫類、p.14. 家の光協会 .
安川雄一郎 . 1996. スッポン . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 (編) 日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、pp. 61,63. 平凡社 .

タワヤモリ

Gekko tawaensis

トカゲ目ヤモリ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が非常に狭い範囲に限られ、産地は孤立している。また、生息環境が急激に悪化しているため、個体数が著しく減少している。

形 態

全長は 90-140mm、頭胴長 55-71mm 程度。背面は灰褐色で、濃色の斑紋が帯状に広がる。腹面は淡色。指下板は 2 分しない。側肛疣は単一の大型鱗からなる。卵は長径 11.0-17.5mm 程度の鶏卵形で、卵殻は硬い。孵化時の幼体の全長は 50-62mm。

近似種との区別

ヤモリとは、背面に大型の顆粒状鱗がないこと、側肛疣が単一の大型鱗からなること、前肛孔をもたないことなどで区別される。

分布の概要

本州の瀬戸内海沿岸、四国、九州東部に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では沿岸部から山間部に生息する。分布記録のある市町村は、徳島市、阿南市、小松島市、鳴門市、板野郡上板町、麻植郡美郷村、海部郡海部町、穴喰町、日和佐町、牟岐町、由岐町、名西郡神山町、名東郡佐那河内村、三好郡池田町、山城町。

生態的特性

海岸や山地の乾燥した岩場に生息することが多いが、場所によっては人家付近にも生息する。夜行性。気温の低い時には昼間でも活動する。繁殖生態についてはよく分かっていないが、産卵期は 6-8 月で、1 対の卵を岩の隙間などに産みつける。卵は 45-90 日で孵化する。完全な動物食で、クモ、昆虫などを捕食する。外敵に襲われると尾を自切することがある。

生存に対する 脅威・保護対策

海岸の岩場が、繁殖、冬眠も含めた全生活史を支える生息環境であるため、護岸工事や公園化などが脅威となっている。自然海岸の保全が重要である。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.
比婆科学教育振興会 (編) . 1996. 広島県の両生・爬虫類 . 中国新聞社 . 167 p.
太田英利 . 1996. タワヤモリ . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 (編) 日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、p. 69. 平凡社 .
千石正一 . 1979. タワヤモリ . 千石正一 (編) . 原色／両生爬虫類、p.19. 家の光協会 .
曾川和郎 . 1979. 徳島県の両生・は虫類の概要 . 第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (両生類・は虫類) 徳島県、pp. 2-4. 環境庁 .

タカチホヘビ

Achalinus spinalis

トカゲ目ヘビ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

県カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が狭い範囲に限られ、特殊な環境に依存している。

形 態

小型の種で、全長 200-600mm（雄の平均 400mm、雌の平均 500mm 程度）。頭が小さく、背面の基色は暗褐色から黄褐色で、正中線上に黒い条線をもち、虹色の光沢がある。うろこは互いに重なり合うことがなく、うろこ間の皮膚が露出している。腹面は黄褐色で斑紋はない。体鱗は胴の中央部で 23 列。腹板数は 143-172 枚、尾下板は対をなさず 39-64 枚。卵は長径 21-22mm 程度の長楕円形。孵化時の幼体の全長は 118mm 前後。

近似種との区別

他のヘビとは、背面に黒い縦条をもち、尾下板が一行であることで区別される。

分布の概要

本州、四国、九州および中国の中・東部に分布する。

県内の生息状況

県内では山地に広く生息すると考えられるが、発見例は少ない。阿南市の伊島のような離島にも分布する。分布記録のある市町村は、徳島市、阿南市、小松島市、麻植郡川島町、山川町、海部郡日和佐町、美馬郡一宇村、那賀郡上那賀町、木沢村、木頭村、名西郡神山町、三好郡西祖谷山村、東祖谷山村。

生態的特性

丘陵地から山地の森林に生息する。林床の湿った落葉下や土壌中、がれ場などに潜っており、乾燥に対して非常に弱く、昼間に姿を現わすことは少ない。繁殖については不明な点が多いが、愛媛県下では 7 月から 8 月に、最高 13 個の卵をもった雌が発見されている。主にミミズを捕食する。

生存に対する 脅威・保護対策

生息地である森林の伐採による乾燥化が最大の脅威である。また、道路の建設は生息地の寸断や事故死を招いているし、側溝などに落ちた個体が、脱出できずに乾燥死することもある。森林の皆伐を避ける。林道の側溝には落下した個体が這い上がるためのスロープを設ける等が考えられる。

参 考 文 献

阿部近一・石井愼義・友成孟 宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.
Fukada, H. 1992. Snake Life History in Kyoto. インパクト出版会 . 171 p.
千石正一 . 1996. タカチホヘビ . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏（編）日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、pp. 94-95, 100. 平凡社 .
山本栄治・岡山健仁 . 1993. 愛媛県小田町で採集されたタカチホヘビの卵について . The Snake (25): 145-146.

シロマダラ

Dinodon orientale

トカゲ目ヘビ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が狭い範囲に限られ、特殊な環境に依存している。

形 態

小型の種で、全長は 300-700mm（雄の平均 600mm、雌の平均 600mm）程度。頭部は頸部よりやや太い程度で、瞳孔は垂直方向に長い楕円形である。背面は灰褐色で、黒色の横帯が胸部に 39-42 個、尾部に 15 個くらいあり、まだら模様をなす。体鱗は胸の中央部で 17 列。腹板数は 192-226 枚、尾下板数は 66-78 対ある。産卵直後の卵は長径 27mm、短径 11mm 程度の長楕円形で、卵殻は柔らかい。孵化時の幼体の全長は 210-230mm 前後。

近似種との区別

アオダイショウの幼蛇も背面に黒色のまだら模様をもち、一見本種に似るが、瞳孔は円形で、胸側面には黒色帯をつなぐ小さな斑紋が加わることで区別される。マムシは頭が三角形で、頸部のくびれが目立ち、背面が赤味を帯び、黒色帯は輪状である。

分布の概要

北海道の一部、本州、四国、九州に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では山麓部から山地に生息するが、発見例は少ない。分布記録のある市町村は、徳島市、麻植郡山川町、那賀郡上那賀町、木沢村、木頭村、名西郡神山町。

生態的特性

石垣の中や、がれきの間などで生活し、夜行性のため人目に触れる機会が少ない。産卵期は 7 月下旬で、卵数は 9 個程度である。孵化までの期間は 46 日で孵化幼体は全長 210mm 程度である。トカゲ、カナヘビ、タカチホヘビなど爬虫類食だが、甲虫、蛾の幼虫なども捕食する。樹皮下や道路沿いの崖にある木の根の間などで冬眠するというが、県下での状況は不明である。

生存に対する 脅威・保護対策

生息地破壊が最大の脅威で、市街地では都市化に伴う石垣の減少や河川敷の改修に伴う護岸のコンクリート化、山地では道路の建設に伴う壁面のコンクリート吹きつけなどが含まれる。分布確認の多くは、轢死体によってなされていることで明らかのように、夜間の道路交通も大きな脅威となっている。本種は石垣やがれきの間という特殊な環境に生息するため、そうした場所を含む地域の開発を避け、保全を図ることが重要である。

参 考 文 献

阿部近一・石井愼義・友成孟宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.
Fukada, H. 1992. Snake Life History in Kyoto. インパクト出版会 . 171 p.
鳥羽通久 . 1996. シロマダラ . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏（編）日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、pp. 92, 99. 平凡社 .

ジムグリ

Elaphe conspicillata

トカゲ目ヘビ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が狭い範囲に限られ、各産地は孤立している。

形 態

全長は 475 - 1150mm（雄の平均 1100mm、雌の平均 1000mm）程度。成体の背面は黄褐色で、黒褐色の斑点が散在する。頭部には二八字状の斑紋がある。腹面には黒褐色の四角い斑紋がある。幼蛇の背面は赤褐色で黒褐色の斑紋が散在する。アカジムグリは本種の色彩変異と考えられている。虹彩は黄褐色。頭部は小さくずんぐりとした体型をしている。体鱗は胴の中央部で 21 列、腹板数は 200-227 枚、腹板数は 221-245 枚、尾下板数は 59-76 対ある。産卵直後の卵は長径 48-60mm、短径 19-24mm 程度の長楕円形で、卵殻は柔らかい。孵化時の幼体の全長は 320-400mm 前後。

近似種との区別

他のヘビとは、背面が一様に黄褐色であること、頭部に二八字状の斑紋があること、腹面に黒褐色の四角い斑紋があることで区別される。

分布の概要

北海道、本州、四国、九州に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では山麓部から山地に生息し、その範囲は剣山の尾根上に及ぶ。分布記録のある市町村は、徳島市、阿南市、麻植郡川島町、山川町、海部郡海南町、牟岐町、那賀郡木沢村、木頭村、美馬郡一宇村、木屋平村、名東郡佐那河内村、三好郡東祖谷山村、山城町。

生態的特性

低地から山地の森林、草地、河川敷などに生息する。ネズミやヒミズといった小形哺乳類を好食するため、穴の中などに潜んでいることが多いので、人目に触れる機会は少ない。交尾期は 4 月から 6 月で、妊娠期間は約 54 日。産卵は 7 月から 8 月に地中に行われる。産卵数は 1 - 8 個で、48-56（平均 51）日で孵化する。

生存に対する 脅威・保護対策

特に低地の生息地が、様々な開発によって破壊されているし、餌となる小形哺乳類も減少している。また、道路の建設は生息地の寸断や事故死を招いている。生息場所であり、餌となる小動物の発生源でもある草地や森林を保全していく必要がある。ある程度の規模の緑地を保全すること。川岸や道路沿いの法面等をコンクリートで固めずに、石組みなどによって隠れ家となる隙間を設ける等が考えられる。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.

Fukada, H. 1992. Snake Life History in Kyoto. インパクト出版会 . 171 p.

千石正一 . 1996. ジムグリ . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏（編）日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、p. 98. 平凡社 .

ヒバカリ

Amphiesma vibakari vibakari

トカゲ目ヘビ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が狭い範囲に限られ、各産地は孤立している。

形 態

小型の種で、全長 300-600mm（雄の平均 480mm、雌の平均 500mm）程度。背面は黒褐色から黄褐色で、腹面は淡いクリーム色。腹部両側にミシン目状の点線斑紋がある。頸部両側から後方に淡黄色のエリ模様がある。体鱗は胴の中央部で 19 列。腹板数は 140-153 枚、尾下板数は 60-83 対ある。産卵直後の卵は長径 22-28mm、短径 8-13mm 程度の長楕円形で、卵殻は柔らかい。孵化時の幼体の全長は 152mm 前後。

近似種との区別

他のヘビとは、腹部にミシン目状の点線模様があることや、頸部両側から後方に淡黄色のエリ模様があることで区別される。

分布の概要

本州、四国、九州に分布する。日本固有亜種。

県内の生息状況

県内では低地から山地に生息し、阿南市の伊島のような離島にも分布するが、低地の個体数は減少していると考えられる。分布記録のある市町村は、徳島市、阿波郡阿波町、麻植郡川島町、山川町、海部郡日和佐町、那賀郡木頭村、美馬郡木屋平村、名東郡佐那河内村、三好郡東祖谷山村。

生態的特性

低地から山地に生息し、半水生でカエルの幼生や小形の変態個体など両生類や、ドジョウなどの魚類、ミミズを好食するため、水田や川沿いなどの水辺に多い。朝方や夕方に活発に行動する。交尾期は 5 月から 7 月で、妊娠期間は 40-50 日。産卵は 7 月から 8 月に行われ、産卵後の雌はすぐに立ち去る。産卵数は 4-10 個で、約 36 日で孵化する。外敵に尾を捕まされると先が簡単に切れることがある。

生存に対する 脅威・保護対策

生息地破壊が最大の脅威で、水田の圃場整備や水路のコンクリート化などによる餌動物（両生類や魚類）の激減が生存を圧迫している。また、道路の建設は生息地の寸断や事故死を招いている。本種は良好な水辺環境に生息するため、水田や湿地の保全を図ることが重要である。

参 考 文 献

阿部近一・石井愼義・友成孟宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.
Fukada, H. 1992. Snake Life History in Kyoto. インパクト出版会 . 171 p.
鳥羽通久 . 1996. ヒバカリ . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏（編）日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、pp. 93, 99. 平凡社 .